

社会資本整備における 信頼の構造と機能

小林潔司(京都大学)

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

信頼概念の多様性

□ 信頼と信頼性

□ 能力に対する信頼と意図に対する信頼

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

現代社会における信頼概念

「個人は見知らぬ他人のことをどのように信頼するのか」

□ 2次信頼問題

信頼者と被信頼者間のコミュニケーション
Kripta特性とManifesta特性

□ 戦略的信頼と道徳的信頼

戦略的信頼；

被信頼者の信頼性に関する予測に基づいて形成される信頼

道徳的信頼；

信頼性に関する予測が不完全な状況の下でさえも、相手を信頼すべきであるという道徳的ルール

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

社会資本整備における 国民と行政との間の信頼

「どのように、国民と行政間の信頼が形成されるのか？」

□ 国民と行政間の信頼形成メカニズム

□ 信頼形成メカニズムが機能するための社会的条件

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

Luhmanの信頼概念

複雑性の縮減メカニズムとしての信頼

複雑な社会の中に何らかの秩序・規則性・内的確実性を見出し、その結果、社会的な複雑性を縮減することを可能にするメカニズム

□ 複雑性

「社会における可能な事態の多様度」

□ 複雑性の縮減 ≠ 完全な確実性

個々人が不確定な事態を想定しつつ、それにもかかわらず、手持ちの情報を過剰に利用し、自分の期待をあてにすること。

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

信頼の契機

信頼形成の帰納的プロセス

「リスクを孕んだ前払い」

信頼者; 被信頼者の信頼性について不確実でありながら、被信頼者を信頼する
被信頼者; 信頼者が自分を信頼するかについて不確実でありながら、信頼性を示す



信頼形成

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

信頼の原則

「期待の相補性」

信頼者と被信頼者のそれぞれの行為が、
相手の抱く期待に対して志向している

▶ 内省的推論と行動ルール

信頼者:

「自分の信頼によって、被信頼者の信頼性を動機付けることが出来る時のみ、相手を信頼する」



被信頼者:

「自分の信頼性によって、信頼者の信頼を動機付けることが出来る時のみ、相手に対して信頼性を示す」

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

期待の相補性と複雑性

事象A

その他の事象

被信頼者の戦略

		被信頼者の戦略		
		「信頼性」	「非信頼性」	
信頼者の戦略	「信頼する」	M, M	$-L, 0$	•信頼者の望ましい行動:「信頼しない」 •被信頼者の望ましい行動:「非信頼性」
	「信頼しない」	$0, -L$	$0, 0$	

信頼者は事象Aの成立が分からない

▶ 信頼者は「信頼しない」を選択する

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

被信頼者に対する制裁と信頼の原則

		事象A	その他の事象	
		被信頼者の戦略		
		「信頼性」	「非信頼性」	
信頼者の戦略	「信頼する」	M, M	$-L, 0$	<ul style="list-style-type: none"> • 信頼者の望ましい行動: 「信頼しない」 • 被信頼者の望ましい行動: 「非信頼性」
	「信頼しない」	$0, M$	$0, 0$	

命題1 制裁制度によって期待の相補性の不成立



信頼者は事象Aの成立に関するどのような主観的確率を有していても、「信頼しない」を選択する

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

被信頼者に対する制裁と信頼の原則

「なぜ、信頼しないのか？」

- 1) 社会的な複雑性の存在
 どれほど、被信頼者の行動を規律付けようとしても、完全に複雑性を除去することは困難
- 2) 期待の相補性原則の除去
 行政は自分の予期とは乖離した存在
 → 「信頼すること」そのものの意義を低下

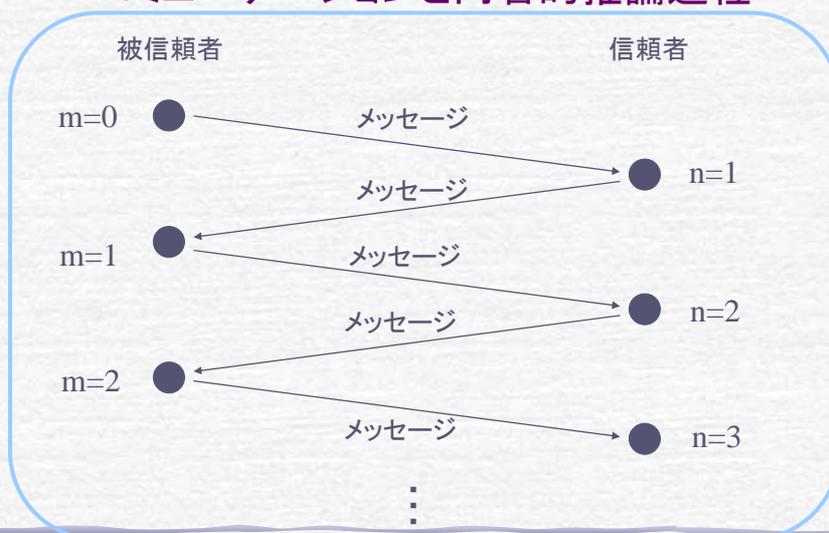
<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

E-mailゲームにおけるコミュニケーション過程

- 信頼者と被信頼者がお互いに、事象Aの成立、及び、自分の企図する行動についてメッセージを伝達し合う
- 小さな確率で、相手のメッセージに対して「嫌疑」を抱く可能性がある
- 自分のメッセージに対して相手が嫌疑を抱いたのかを把握できない
 - 各主体は、自分のメッセージが相手に届いたか、確認し合う

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

E-mailゲームにおける コミュニケーションと内省的推論過程



<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

共有知識と内省的推論過程

- どれほど、メッセージを交換しても、事象Aは共有知識にならない
 - 1) 2人のプレイヤーが事象Aを知る
 - 2) 2人のプレイヤーが事象Aを知るところを2人のプレイヤーが知る...
- 遡及的な内省的推論

初期時点において、「信頼しない」、「信頼性を担わない」限り、どの時点でも、信頼関係は不成立

命題2

信頼者と被信頼者が遡及的な内省的推論を行う限り、両者の間で信頼関係は形成されない。

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

自生的秩序としての信頼

- 信頼者と被信頼者の自発的なメッセージ伝達行動

相手のメッセージを受けて、

- 1) メッセージを伝達
- 2) 伝達しない

を選択する

命題3 (Binmore and Samuelson, 2001)

すべての正の整数 $i > 0$ に対して、以下のNash均衡解が存在する。

メッセージが i 回伝達された時に限り、信頼者と被信頼者はそれぞれ信頼する、信頼性を担うことを決定する

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>

信頼と言語体系

- 信頼者と被信頼者間のコミュニケーション
協調的行為
- 言語の焦点的意味
既存の言語体系に照らし合わせて、
形成される一種の均衡状態
- 言語体系の不一致問題

<http://psa2.kuciv.kyoto-u.ac.jp/joomlaJP/>